令和３年２月１７日

全校集会　校長講和

「有終の美を飾りましょう」

全校生徒の皆さん、おはようございます。今日は２月１７日、ふり返れば、３学期も既に折り返し点を過ぎ、来月２４日の修了式まで、皆さんが学校へ通う日は、残すところ２５日となりました。

私たちが暮らす社会は、依然として新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言下にあり、誰もが感染症防止対策をしっかりやり切っていく中で、基本的な社会生活の営みを切らすことのないようにと、みんな一生懸命生きています。そのような中、中学校は、今、一年の中でも最も大切な時を迎えています。３年生は、自らの進路を切り拓くべく、まさしく本番、高等学校入学試験の真っただ中です。先週１０日（水）、多くの３年生が、それぞれが目指す大阪府の私立高校入学試験に挑みました。当日朝早い時刻、６時５０分ごろでしたか、出勤途上私の乗る電車は藤井寺駅に到着し、２階改札口に向かうと何人かの藤中３年生に目が留まりました。みんな、いざ本番へ向かおうとする引き締まった表情でしたが、一方で肝が据わった、物おじしない頼もしさを感じました。私は、敢えて本校生徒たちに近づき、元気・笑顔を意識し、「おはようございます。がんばっといで！」と声をかけました。みんな、笑顔で会釈を返してくれて、「ありがとうございます」と答えてくれました。その姿に、私は、「コロナ禍のこの一年、数々の試練に耐え、辛いこと、不安や心配を克服し、物事を前向きに捉えて歩んできた３年生の姿は、今、ほんまもんの「力」をつけつつある、そんなたくましさを持ち合わせる人へと成長したんやなあ」と実感しました。

私学専願で合格した皆さん！ おめでとうございます。４月を迎えるまでのあなたの姿勢そして、行動はとても大切です。これまで一緒に過ごしてきたすべての同級生に、感謝と卒業後のこれからもずっと「よろしくね」を込めた気持ちを、また、お世話になった先生方や学校の職員の皆さん、１・２年生の後輩、さらには教室、グランド、校舎に感謝の心を、行動で表しましょう。

この後、公立高校や専門学校等の入試を控えている皆さんは、もうひと踏ん張りですね。家族、クラスメート、先生方、皆さんが温かく見守ってくれていますよ。安心して、自分が今すべきことを着実にやりきっていきましょう。今こそ、「ゾーン」に入りましょう。３年生の皆さんが２年生の時、２学期の終業式の場で、私がイチロー選手の話を引き合いに出してお話しした、「ゾーン」ですよ。

続いて、２年生、１年生の皆さん、先週、体育館で披露していただいた「Cups」による学級パフォーマンス、あなたたちの「仲間の絆」を鮮やかに体現しました

ね。藤中生の「底力」を見た思いです。見事でした。接近・接触・密接した中での対話が許されない、この困難の中、さまざま制限がある中で、皆さんは、創意、工夫を凝らし、クラスごとに皆さんの英知を結集して、行事「Cups」に息を吹きこんでくれました。他のどこにもない、独創性豊かな「あなたたちの Cups パフォーマンス」が生み出されましたね。心より敬意を表します。
　参観した私たち先生方は、コロナの暗さを払しょくさせる明るい光を浴びたかのような感覚を覚えましたよ。まさしく、「春近し！コロナ終息近し！」を期待させてくれた皆さんのパフォーマンス、勇気を与えてくれた皆さんに、再度、感謝の意を送りたいと思います。

　さあ、改めて全校生の皆さん、未曽有の事態となった本年度、２０２０年度は、世界中の誰もが、今後何十年経っても決して忘れることのない年となるでしょう。今年度私たちが経験した出来事、その都度感じたさまざまな感情は、鮮やかに記憶されていくことでしょう。だからこそ、２０２０年度に、自分自身が、何を思い、何を大切にし、何をどう行ったかは、とても、とても大切な足跡・軌跡となると私は信じます。このことは、あなたたち中学生だからということではなく、大人も子どもたちにとっても大切な姿勢であると思います。

その意味で、皆さん、あと１か月余りとなった本年度、ゴールを目指して、自身の「有終の美」を飾るよう、力を注ぎましょう。自分は、この年に何ができるようになったか、どう成長し、どう生きたのか！　必ずや３０年後、５０年後に鮮明に振り返る　その時のために、自分自身の「有終の美」を飾るのです。
藤中ライフ、クラス、学年、部活動　などなど　きっちり形として何かを仕上げていくこと、このことはまた新年度４月からの自分に、大いに活かされることにもつながると信じます。
　今日の全校集会が、今年度最後の集会となります。３年生は、中学校最後の全校集会です。フェイス　ツー　フェイス・対面での集会が叶わなかったことは残念ですが、学校を閉じることなく今日の集会を無事行うことが出来た、このような感謝の気持ちで、今日という一日も明るい希望を持って頑張る！
大切にしていただきたい姿勢です。
　以上、私の話とします。